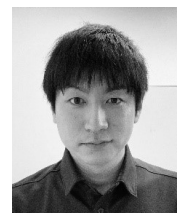


第8回大学体育スポーツ研究フォーラム報告

第8回大学体育スポーツ研究フォーラムに参加して

別府大学短期大学部 木戸 貴弘



令和2年2月27日（木）、28日（金）に新潟医療福祉大学（新潟県新潟市）で「第8回大学体育スポーツ研究フォーラム」が開催されました。私は令和元年度より別府大学短期大学部に着任し、同大学の中山正剛准教授のご紹介を受け、初めて大学体育スポーツ研究フォーラムに参加させていただきました。フォーラムに参加するに当たって、初めて新潟県を訪れるということもあり、様々な期待感を持ちながら、当日はまだ夜が明けないうちに大分を出発し現地へ向かいました。

フォーラムの概要として、1日目には16演題の発表（事例報告9演題、研究報告7演題）が行なわれ、2日目には西原康行教授（新潟医療福祉大学）による基調講演及びワークショップが2題行なわれました。

研究発表の内容については、大学の体育授業における効果研究が多い傾向にありましたが、大学体育授業との関連から、インターンシップ科目の授業設計に関する事例報告やスキー実習による経営学的観点からの成果報告、オンライン学習管理システムを活用した保健体育授業の教材開発に関する報告など、多岐にわたり大学体育に関する研究発表が行なわれ、私自身も新たな視点から課題や成果を捉えることができました。なかでも、フォーラム優秀発表賞を受賞された藤野和樹先生（千葉商科大学）による「ADDIEモデルを用いた大学体育授業の再設計」の発表では、大学の建学の精神やディプロマポリシーと体育の授業を繋ぎ合わせ、授業内における評価方法やワークブックの活用方法の実践事例が紹介され、大学体育の新たな学びの可能性を感じることができました。

基調講演では「教育工学と大学体育教員の力量形成」をテーマに西原康行教授（新潟医療福祉大学）によるご講演を聴講しました。教育工学における教師教育の5つのアプローチに関する内容や大学体育教員の力量形成に関する昨今の研究状況などについてご説明をいただきました。体育教師は学生の学びを促すため

に即時的な働きかけやタイミングが重要であり、一定の答えがなく解決方法を模索していかなければならない「創造性技能領域」という仕事領域に位置づけられ、その領域の力量を高めるためのトレーニング方法である「オンゴーイング法」、「再現認知法」を西原教授ご自身の実践動画を用いながらご説明いただき、非常にわかりやすく理解することができました。今後、私自身の教師としての力量向上に向けた手立てを学び得ることができました。ワークショップでは1部で佐藤敏郎教授（新潟医療福祉大学）による「医療福祉系大学教養体育の実践事例」に関するご講義、2部では「車いすバスケットボール体験」が行なわれました。残念ながら私は公共交通機関の影響により途中で帰宅しなくてはなりませんでした。2日間を通して大変有意義な時間を過ごすことができました。

フォーラムに参加して感じたことは、先生方が全国各地より参加されており、年齢層も様々で活発な意見交換が行なわれている印象を受けました。また、アットホームな雰囲気もあり、私のように初めて参加した者でも積極的に受入れていただき様々ご教授いただきました。フォーラムに参加したことを一つのきっかけとして、大学体育のさらなる発展に私自身も貢献できるよう日々精進していきたいと思っております。